

学校の授業を、家庭でも！

国語の授業って、実は、こうやってできてます！ 第2号

今回は、さらに詳しく、国語学習についてお話しします。
少し、専門的な内容になりますが、学習の大切な部分です。
それでは始めましょう。（アウトラインの番号は、前回からの続き番号です。）

（3）学校では、「何を」「どうすること」が目的？

学校での授業の根拠となる「小学校学習指導要領解説国語編（文部科学省，平成29年告示）」では、「読むこと」の指導事項（文学的な文章）を次のように構成しています。（こういうことを学校で教えなさいって意味です。）

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
① 構造と 内容の 把握	場面の様子や登場人物の行動など、 内容の大体を捉えること。	登場人物の行動や気持ちなどについて、 叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情などについて、 描写を基に捉えること。
② 精査・ 解釈	場面の様子に着目して、登場人物の行動を 具体的に想像すること。	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、 場面の移り変わり結び付けて 具体的に想像すること。	人物像や物語などの全体像を 具体的に想像したり、 表現の効果を考えたりすること。
③ 考えの 形成	文章の内容と 自分の体験とを結び付けて、 感想をもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、 感想や考えをもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、 自分の考えをまとめること。
④ 共有	文章を読んで感じたことや分かったことを 共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを 共有し、 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を、 共有し 自分の考えを広げること。

「何を（ピンク）」、「どうすること（黄色）」が目的なのか、示されています。内容については、発達段階に合わせて、ステップアップしていきます。

注目していただきたいのは、どの学年も共通して、「①構造と内容の把握」「②精査・解釈」「③考えの形成」「④共有」の4つの学習過程が示されていることです。

これらを「育てようとしている力」として、次のように言い換えることができると考えます。

	学習指導要領上の項目	育てようとしている力
①	構造と内容の把握	書いてあることを、 <u>正確にとらえる力</u>
②	精査・解釈	書かれていないことについて、 <u>想像する力</u>
③	考えの形成	知っていることや体験などと結び付けて、 <u>自分の考えをもつ力</u>
④	共有	<u>他者の考えを受け止め、自分の考えを広げたり深めたりする力</u>

(4) もう少し具体的に見てみましょう

これらを踏まえて、3年生、4年生の文学的な作品（物語）の学習を**家庭で取り組む**としたら、

- ①「誰が何をしたのかを、文章から正確にとらえる」
- ②「文章に書いていないこと、場面からを想像する」
- ③「文章の内容について、（自分の経験と重ねて、）気づいたこと（似ているところや違うところ）を家の人に伝える」
- ④「書いてある同じ部分について、家の人を考えを聞き、自分の考えとの違いに気付く」

といった具合になると考えられます。

次は、①～④について、3年「すいせんのラッパ」を例に、もう少し具体的にどんな風に教えればいいのかを考えてみます。

今回はひとまずここまで。いかがでしたか？少し、専門的な内容だったので、難しいところもあったと思います。次回は、具体的に、どんな風に教えるのかについて、具体的な話を続けますね。

ありがとうございました。